慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アンドリュー・ ヤラントンの経済論
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.6 (1920. 6) ,p.821(83)- 834(96)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200600-0083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

佛蘭西革命によつて主張せられしものが、今は獨逸の大學教授によつて唱へらるゝことである、之れは科學と正義の勝利である」(一)と云つてゐるのであるが、事實、講壇社會主義は吾人の經濟生活上、新しい世界を見出したものでなくて、寧ろ舊き思想を實現せんとする「行爲」の經濟學である、既に思惟よりも行爲を重しとすることは自から政治的色彩を有することとなり、斯くして認識的價値を力說する論者より批難攻擊の的となるに至つたのである。(完)

一、Julius Wolf, Die Volkswirtschaft der Gegenwart und Zukunft. s. 28.

雜錄

アンドリュー・ヤラントンの經濟論

高橋誠一郎

一

Patrick Edward Dove は一千八百五十四年、其の著 Elements of Political Science. に An Account of Andrew Yarranton, the founder of English Political Economy. の一篇を追錄し、又た之れを別冊として刊行し、Andrew Yarranton を以て「英國に於ける經濟學の眞正なる創設者なり」と呼べり。Dove が推奬の辭の當否は姑く措き、Yarranton が一千六百七十七年を以て倫敦に於て出版したる England's Improvement by Sea and Land to outdo the *Dutch* without Fighting, to pay Debts without Moneys, to set at Work all the Poor of *England* with the Growth of our own Lands to prevent unnecessary Suits in Law; with the Benefit of a Voluntary Register. Directions where vast quantities of Timber are to be had for the Building of Ships; with the Advantage of making the Great Rivers of *England* Navigable. Rules to prevent Fires in *London*, and other Great Cities; with Directions how the several Companies of Handicraftsmen in *London* may always have cheap Bread and Drink. は第十七世紀の經濟書中に在りて最も特色あるものゝ一なる可し。

Andrew Yarranton が生死の年月は明確を缺くも、凡そ一千六百十六年より同八十四年若し

くは五年に亘りて生存せる人なるを明かなり。其の生涯を知らんとせば、彼れ自身の著書に據るを捷徑とす。蓋し彼れの著作は自傳的叙述に富むを以てなり。（例へば前掲 England's Improvement by Sea and Land, p. 193-4 の如き是れなり）。Sir Ernest Clarke は是れ等の叙述を基礎とし、更らに Domestic State Papers に據りて之れを補足し、其の傳記を Dictionary of National Biography に掲げたり、（同、vol. XXI, pp. 1199-1201.）。尙ほ、Samuel Smiles の Industrial Biography (1863, pp. 60-76.) 等參考に値するものあらん。

彼れが最初の著書は一千六百六十一年を以て出版せられ、其の再版（一千六百六十三年刊行）は The Improvement Improved, by a second edition of the great Improvement of Land by Clover. と題せられたり。本書は彼れがライ麥畑の極度の「衰弱」及び當時彼等が長き耕作の爲めに患みつゝありし「食傷」の狀態に就きて理論と實際の兩方面より研究せる結果に成りしものにして、彼れはクローヴァを以てする六頽は野草を以てする三十頽の土地に匹敵することを主張し、其の播種、土壤の選擇、之れを以てする家畜の養殖に關する定則を擧示し、且つ低廉に良種を取得し得可き二十八個所の一覽表（全部 West Midlands に存す）を掲げたり。著者自らの言に據れば、其の兩卷は著しく地方人士の需要に適し、Worcestershire 以下の四州に於ける大部分の地價は新耕作法に依りて二倍ならしむるを得たりと稱せり。即ちクロヴァは凡そ十三年以前に Sir R. Weston が Brabant より誘入したる所なるが、彼れが周到なる五ヶ年間の經驗に由りて當初に於ける失敗の原因を覓めて、之れを劣惡にして高價なる種子、播種の疎薄なること及び不適當なる土壤の選擇等に歸せるなり。彼れは又た久しく是れ等の地方に其の種子を供給せり（前掲、p. 194.）。彼れは又た其の書中に於て偶々農業に對する四個の障害を論評し、之れを以て、無知、因習、「一文惜みの百損知らず」、及び自己の取扱ひ得る以上の土地を收得することに在りと做せり。本書は僅々六十二頁の小篇なり。

Yarranton が第二の著書は即ち前掲 England's Improvement by Sea and Land. にして、一千六百八十一年其第二部を上梓せり。本書題號の樣式は當時の流行にして彼の以前已に倫敦商人 John Smith の England's Improvement Reviv'd（一千六百七十三年版）並に Blith の The English Improver Improved, a new survey of husbandry（一千六百五十二年）等の著ありしなり。

彼れが第三の著は一千六百八十一年を以て出版せられたる A full Discovery of the first Presbyterian Sham Plot, or a letter from one in London to a Person of Quality in the Country. なり。Yarranton は一個の長老教會員として、又た舊共和政府の軍人として、彼れの所謂 Presbyterian Sham-plot に坐して一千六百六十一年入牢の苦を嘗めしなり。本書の出版は彼れに對する冷嘲熱罵の因となりて、彼れは殊に A Coffee House Dialogue, or a Discourse between Captain Y. and a young Barrister of the Middle Temple. と題したる小冊子によりて痛く攻撃せられたり。此の小篇中に於て Yarranton は倫敦市街の全部をして悉く舟航し得可き河川たらしむるに由りて、戰はずして和蘭を打破す可きを縷說しつゝある者として描出せられ、次いで對話は排斥法案（exclusion Bill. 即ち York 公、後の James 二世が羅馬加特力教徒たるの理由を以て

其の王位に即くを阻止するの目的を以て、一千六百七十九年下院に提出せられたる法案にして同院を通過したるも一千六百八十一年上院に於て否決せられたるもの）に關する專門的議論に入れり。固より Yarranton は這般の議論に於て全然敗北す可き地位に在るなり。次いで現れたる二小篇 The Coffee House Dialogue examined and refuted by some neighbours in the Country. 及び England's Improvements Justified, and the author thereof, Captain Y., vindicated from the scandals in a paper called a Coffee House Dialogue. に於て彼れは其の友人により「誹謗と讒言の硫黄の燃ゆる惡臭の坩堝」より辯護せられたり。而も是れ等の辯疏は更らに又た A Continuation of the Coffee House Dialogue, between Captain Y. and a young Baronet [sic] of the Middle Temple, wherein the first dialogue is vindicated and in it one of the Improvers of England is proved to be a man of no deeper understanding than his master, Captain Y. の出版を促せり。

不眞面目なる反對論者は彼れが表題頁の文字を捩りて to make the streets navigable rivers, to harbour ships on a hill. 云々と作し、彼れが舟航の計畫は拋棄の已むなきに至り、其の土地登記法案は庶民院によりて一蹴し去られ、一週二回集會し來りたる六十名の紳士より成る其の俱樂部 the improvers of England. は解散せられたりとの理由に基きて之れを嘲弄せり。然れども他方に於いて其の分疏者の所言に據れば、是れ等の毒舌は總べて論者が羅馬敎派の三百代言たる性質を暴露せしめ、單に Yarranton の效績をして更らに顯著ならしめ、而して英國の改良をして更らに榮えあらしめしに過ぎずと。(A. L. Smith, Article on Yarranton in Palgrave's Dictionary, vol. III, p. 681.)。

吾人は以下專ら彼れが第二著に就きて其の經濟論の要旨を窺はんとす。

二

彼れは先づ御璽尙書 Anglesey伯 Arthur 及び倫敦市收入役 Sir Thomas Player に對する獻本の辭に於て曰く、我が風土の位置、我が國土の性質並びに我が人民及び政府の體制は吾人をして世界上に於ける凡ゆる國民の上に傑出せしむ可しと。

戰に依りて天然及び人爲の防備を有する和蘭を擊破すること難し。即ち Texel 其の他の河口より Elbe のそれに至る獨逸海岸一體の砂濱及び避難所は彼れ等を防護し、而して彼れ等をして英國の船舶よりも五呎方吃水少なきものを使用するを得せしむるが故なり。(England's Improvement, pt. i, pp. 1 ff.)。然らば戰はずして和蘭を擊破す可き方法如何。和蘭の熱愛せる惰婦と快樂とは貿易及び是れに依れる財富なり。而して其の隣邦の大多數は之れと該人民との間を分離せしめんとせるも、而も英國を初めとして孰れも長く其の愛を享有すること能はず。彼の女は今も猶ほ依然として彼れの鈍重なる態度 (dull and flegmatick Air) を愛するなり。吾人は須らく是れが理由を發見せざる可らず。洵に名譽、正直、財富、强大及び貿易は五人の姉妹にして、常に手を携へて行進し、分離せしむること能はず。(同、p. 6)。

Yarranton は其の理由を求めて五を得たり。(一)訴訟の煩累なく、法律家の必要なく、隨時に現金を調達し得可き凡ゆる土地家屋の公登記(二)交通をして便易ならしむるに資する運河 (Cut Rivers) の開鑿、(三)紙札をして現金と同等、若しくは幾多の地方に於ては其の以上に流

通せしむ可き大信用を有する公立銀行、(四)商人間に於ける一切の爭議を決定す可き商事裁判所、及び(五)凡ゆる貧民が極めて低廉なる利子を以て物品に對して貨幣の借入を得可き質店(Lumber-house)是れなり。(同P. 7.)。現今英國に於て一ヶ年一百磅の收入ある土地を有する紳士が金融業者(Money Scrivener)の下に來りて、其の全部の土地に對して四千磅の融通を希望し其の文書を呈示し、而して其の土地は二百年間該家族の所有に屬せりとするも、彼れにして其の證書に對して保證人たる可き友人を有せざる時は、終に其の所要の金額を調達すること能はざる可し。是れ即ち現行英國法制の下に在りては、私かに土地に負擔を帶ばしむる可き幾多の方法存するが故に、何人も文書に據りて權利を知悉すること能はざるが故なり。(同P. 8.)。吾人は彼れが當時に於ける一部の思想を傳承して、土地の任意的登記に由りて流通資料を増加し、更らに土地を資本とせる國立銀行を設立せんと提案したること(同、pp. 7 ff. 及び Pt. II, pp. 16 ff.)は既に「フヰジオクラットの純收益論」(三田學會雜誌第十一卷第三號所載)に於て擧示したる所なり。

彼れは「最近の戰慄す可き火災に由りて破壞せられたる倫敦市の內部及び附近に於て、自今新たに建造せらる可き總べての家屋は其の意に從つて之れが所有者に由りて倫敦市會館(Guild-Hall)に於て登記せらる可きものなり」云々の法案を通過せしめんことを希望し、尚ほ、倫敦及び Middlesex, Essex, Kent 及び Surrey の自由地に對するものゝ外、Yorkshire の三區、Lincolneshire, Suffolk, 及び Norfolk に對するもの Glocestershire, Somersetshire 及び Monmouthshire に對するもの並びに Devonshire に對するもの等二三の登記簿を設く可きを論じたり。然らば倫敦は Amsterdam の如く大銀行を有し、交易、信用及び一切の重要なる事項に關し、彼れ等以上の事を行ふを得可く、Bristol は Hamburgh の如く大銀行を有して、大交易を營み、衰退せる Wales 及び愛蘭沿岸に於ける漁業を振興す可く、Norfolk に於ける Lynne 及び Yorkshire に於ける Hull の二市は Dantzich の如く大銀行を有して、有利なる交易を行ひ、又た現時頗る衰微するに至りたる被服業を皷舞し、其の沿岸に於ける漁業を振興す可く、而して Exeter は Noremberge の如く大銀行を有して、英蘭土西部一體に於ける毛織物業に生命と氣力とを與ふ可きなり。蓋し、銀行なくんば如何なる大事業も行はるゝこと能はず、而して登記の存せざる場合には如何なる銀行も交易及び公共に取りて毫も利益たること能はざるなり(同、pp. 14-17.)。

斯くて彼れは利子が六分より四分に低下す可きを想像せり。而も彼れは是れに對し四個の反對論に逢着せざるを得ざりき。第一及び第二は法律家及び負債を有する紳士は之れを喜ばざる可く、第三は彼れ等にして下院に列る者は等しく之れに反對す可く、第四は其の文書を作製するに由りて、其の權利の缺點を暴露せしむるが故に、幾千の家族を困窮せしむ可しと做すもの是れなり。然れども登記は任意にして強制せらるゝものに非ず、而して登記せられたる土地は急速に交易を奬勵するに足る可く、軈がて法律事務及び之れに伴へる費用をして舊時に比して減少せしむることなかる可く、又た登記を爲しつゝある者は貨幣なくして其の債務を支拂ふことを得可し(同、pp. 23-5.)。貧弱なる蘇蘭の土地が二十四年間の地代に相當する價値を有し、僅かに之れを航海三時間の距離を隔つるに過

ぎざる愛蘭の北部は八年買の價値を有するに過ぎざるは全く登記の有無に依るものなり。Copyhold Mannor に過ぎざる Somersetshire に於ける Taunton Dean の莊園の如きすら登記法の力に由りて其の土地は二十年買の價値を有するに、英國全般の土地を平均する時は十六年買に値せず、而して若し急速に登記法を施行せずんば久しからずして、十二年買に下降するに至る可し。(同、pp. 26-7.)。

彼れは又た Kingstown 及びNewhaven の築港及び Wexford 及び Hampshire の Christ-Church に更らに低廉なる造船所を建設するの案を建てたり(同pp. 38-44.)。

三

次いで Yarranton は亞麻及び鐵の二工業を發達せしむるに由りて、男女兒童を論せず、英國内に於ける一切の貧民に就業の途を與ふるの策を提言せり。(同p. 44.)。彼れは獨逸の各市に於ては六歳以上の少女に亞麻絲紡績を敎ゆる學校あることを說き(同、pp. 45-6.)、英國内にては Warwick, Leicester, Northampton 及び Oxford の諸州を以て、現在に於て何等重要なる產業を有せず、且つ其の土地は豐沃乾燥にして亞麻の栽培に適せるを以て該工業を起すに適せるものなりと做し、一緉の土地は三ハンドレットウエートの亞麻を生ず可く、之れを精製する時は、一エル三志を値する亞麻布四百エルを得可しと說けり。斯くて英國は少くも年々亞麻布に對して國内より拉し去らる可き二百萬磅の貨幣を抑止し得可く、且つ自國内に雇傭の途存せざるが爲めに目下海外に渡航しつゝある我が人民を抑留し得可し。人口の稠密なる所は乃ち富裕なるに反し、其の稀薄なる所に在りては土地は乃ち貧瘠にして、凡ゆる貨物は低廉なり。(同、pp. 47-53.)。吾人は最初先づ獨逸及び Haerlem より織機、紡車及び筬 (Slayes に綴る、恐らくは Sley なる可し) の見本を得可く、Strafford及び Coventry の兩地の如き些かの人工を加ふる時は亞麻布漂白地として却つて Haerlem を凌駕するに至る可し。Yarranton は幼にして亞麻布商の丁稚たり、又た無職の貧民を使傭して、彼れは其の妻と共に十分なる成功を以て頗る精良なる亞麻布の製造を助成せり、而して彼れは曾つて十二名の英國紳士の委託を受け、獨逸及び和蘭の工業を巡察せるを以て、是れ等の問題を取扱ふ可き充分の資格あることを自信せり(同、pp. 55-6.) 尙は同一問題に關する彼れの意見を知悉せんとせば、同じく本書第一編に收められたる Considerations upon the advantages and disadvantages of the Manufacturies of Linnen, Thred, Tape, and Twine for Cordage. pp. 144-6.) 並びに同第二部（一千六百八十一年版）第九章 (pp. 185 ff. 原本には第八章とあるも、事實は第九章なり) を參照せらる可し。尙ほ著者は他の部分に於て、Friburgh, Dort 獨逸及び Harlem より各、織匠、製糸工、紡績工女及び漂布工を招致す可きを主張せり(同pt. I. p. 159.)。

第二に貧民に業務を與ふ可きものは鐵工業なり。然れども鐵工業は總べての森林を濫伐せしむるの虞れあるが故に、寧ろ其の國内に存在せざることを望み、西班牙よりの輸入を以て却つて自國を利する所大なる可しと論ずる者多數なるを聞く。(同p. 56.)。而も事實は却つて反對にして、鐵工場の存する總べての地方に於ては、概して坑炭の價格低廉にして其の供給無盡なるを以て、若し鐵工業の存在を見ずとせば、等しく是れ等の地方に多量に存在する矮林及び森林は悉く剿滅せられて牧草地及び農耕地と變ずる

に至る可し。(同 p. 60.)。而して若し燃料を産するに適せる總べての共有地を圍繞す可き法律を制定する時は、更らに其の供給は充分なるを得可く、同法は又た以て將來に於ける造船及び建築用材の供給を確保するを得可し。(同 p. 58.)

亞麻及び鐵の兩工業に對する原料は悉く國內に産する所にして、法律に由りて扶翼せられんか、是れ等の兩工業は英國內に於ける凡ゆる貧民を業務に就かしめ、著しく國家をして富裕ならしめ、是れに由りて現今我が國を離れつゝある人民を却つて國內に誘致し、斯くて又た和蘭人の手より是れ等の二大工業を奪ひ、戰はずして之れを破るを得可し。即ち各種の貨物に製造せられたる多量の鐵は Rhine河を下りて Leige, Gluke, Soley 及び Cologne より和蘭に集り、彼れ等の手を經て汎く全世界に配付せられつゝあるなり。(同 p. 61.)

今、英蘭及び Wales 內に無職の貧民十萬を算す可しとし、而して其の各個は國家に一日の食料四片の負擔を課するものとせば、彼れ等にして悉く業務に就きて一日八片を取得するに至らば、國家は貧民一人に就き利得し得る所と節約し得る所とを合算し、一日十二片に達す可く、結局是れ等兩工業に於て年々一百五十萬を利得することゝ爲る可し。而して現今索遜に於ては是れ等二工業の行はるゝ結果として、同地方を旅行するも、克く一人の乞食に遭遇することなし。(同、pp. 61-2.)。亞麻及び鐵の兩工業は之れを公法の力に由りて我が國に於て奬勵せらる可く、以て今や外國民を利しつゝある是れ等職業を專ら吾人に吸收す可きなり。而して是れが爲めには先づ英國に輸入せらる可き凡ゆる亞麻糸類に對して少くも一磅に就き四志、一エル四志以下なる凡ゆる亞麻布に對しては一磅に就き三志の關稅を賦課し、而して如上の法律は之れを七ケ年間存續せしむ可し。斯くて這個の課稅に由りて幼年期の亞麻工業は深く其の根柢を固むるに至る可きなり。鐵工業を奬勵するが爲めには、總べて英國に輸入せらるゝ外國條鐵に對して一タン三磅、鐵製品に對して六磅の課稅を行ふ可し。(同、pp. 62-3.)。

四

次いで Yarranton は英國內に於ける諸大河をして航行し得可きものたらしめ、是れに由りて貨物及び商品を彼れ等が現今支拂ひつゝある料金の半ばを以て、特に冬期に於て、輸送するを得せしむ可きを提唱せり。Thames 及び Severne の兩大河は、既に一は Oxford 他は Welchpool より Bristoll に至るまで舟航し得る所なるも、而も兩河の一方は南に向つて直流し、他は東に走るが故に、其の最も接近せる場所に於ても四十哩の距離を隔て、輸送上相互に助力するの利益あることなし。斯くて是れ等兩河をして相通せしむるが爲めに、新運河を開鑿せんとするの計畫は約十年以前より企圖せられたる所にして、Moxon 氏は Mathews 氏の爲めに這般の計畫を明示するの目的を以て圖面を作製し、幾多の貴族及び鄉紳、就中 Albemarle 公及び Pembroke 伯の如きは之れに從事せり。然るに珈琲店の無駄話は這般の計畫を以て其の實行不可能なるものとして休止せしめたり。然るに一千六百七十六年夏著者の子 Robert は兩度 Thames 及び Charwell の兩河を踏査したるが、Charwell をして Banbury まで航行するを得せしめ、而して Avon 河は既に Severn 河に會流する所まで航行し得可きが故に、Stower 河をして Shipton より Stratford を去る二哩の所に航行するを得せしめば、是れ等兩大河の水路は八哩以內に於

て相通ずるを得可し。而して此の八哩の陸路は丘陵多き堅牢乾燥の良地たらしむるを得可し。Charwell 河をして Oxford より Banbury に至る迄航行し得可きものたらしむるが爲には約一萬磅、又た Avon 河をして Shipton に至る迄航行するを得せしむるが爲には約四千磅を要す可し。是れ等の二計畫にして完成せられんか、Cheshire, Wales の全部、Shropshire, Staffordshire 及び Bristol よりの重大なる貨物は低廉に倫敦に往復するに至る可く、是れに由りて曩に提唱したる亞麻及び鐵の兩工業の發達を助成することゝ爲る可し。（同、pp. 64-5.）。即ち Yarranton は運河の開鑿よりも寧ろ現存の河川に浚渫を施し、水門を設け、以て其の航行を可能ならしむるに熱中せるなり。彼れは暫く英國に於ける三大河及び若干の小川を實測するを以て其の事業と爲し、兩河をして航行し得可きものたらしめ、第三のものに對しても殆んど之れを完成するを得たりと稱せり（同、pp. 193-4.）。

Yarranton は又た索遜及び其の他の獨逸諸地方に於て行はるゝ方法に倣ひて、倫敦其の他英國の大都會に於て火災を防止するの策を建てたり。消防隊の組織、消防委員、技師及び見張の定置、消火機及び總べての罹災家屋より取出せる財物、新たに製造せらる可き橇及び銅桶等の納庫建設、最高塔の頂點に於ける見張の交番（夜間は二時間毎に三十分間箪篥を吹奏す）、給水嘴管橇及び銅桶を牽引す可き馬匹等即ち是れにして彼れは更らに語を續けて現時に於ける火事場の混亂を叙せり。（同、pp. 67-70.）。

次いで彼れは等しく獨逸の例に倣ひて、Northamptonshire に於ける Wellinborough, Leicestershire に於ける一定の都邑、Banbury（Sharwell 河にして同地まで航行し得るに至らば）、若しくは Bleckington 附近並びに Warwickshire に於ける Avon 河上の Stratford に穀倉（Bank-Granary）を建設す可きを主張せり。這個の公設倉庫は全倫敦市の手工業者及び地方に於ける亞麻工業に從事しつゝある者に、各個の人口稠密なる中央都市に於ける公設釀造所及び麵麭製造所（Publick Bake-house and Brew-house）に於て準備せらる可き低廉なるマム麥酒其の他の飲料及び麵麭を多量に取得せしめ、鄕紳及び農民をして其の穀物に對する鼠類の害を免れしめ、穀價の低廉より來る不景氣を防止し、貧民を養ひ、借地人を保護し、現在死藏せられつゝある一切の貨幣を流通場裡に誘致し、穀物をして軈がて現金に勝るの流通資料たるに至らしむるを得可し。（同、pp. 113-138. 並びに Considerations upon Bank-Granaries. pp. 150 ff. 及び pp. 181 ff. 等參照）。

五

一千六百八十一年を以て刊行せられたる England's Improvement by Sea and Land. の第二部は其の題號頁に Containing I. An Account of Its Scituation, and the Growths and Manufactures thereof. II. The Benefit & Necessity of a Voluntary-Register. III. A Method for Improving the Royal-Navy, Lessening the Growing Power of France, and Obtaining the Fishery. IV. Proposals for Fortifying and Securing Tangier, so that no Enemy shall be able to Attaque it. V. Advantageous Proposals for the City of London, for the Preventing of Fires and Massacres therein; and for Lessening the Great Charge occasioned by the Keeping up of Trained Bands. VI. The Way to Make New-Haven in *Sussex*, fit to Recieve Ships of Burthen. VII. Seasonable Discourses of the Tinn, Iron, Linnen, and Woolen Trade;

with Advantageous Proposals for Improving them all」の文字を掲げ、目錄を載せ、章を分ち、幾分其の體裁を正しくせり。然れども其の所論中には既に第一編中に論述せられたるものを反復する所極めて多し。洵に反覆重複は彼れが文章の通態にして、其の論述は著しく散漫に流れたり。

彼れは諸經濟的現象の奥底を窮めて其の必然的關係を探るの洞察力を有すること尠少にして、而も彼れが Petty, North, Locke 及び Barbon 等と殆んど時を同ぐして生存せる人なるを思はゞ、固より前に掲げたる Dove の讃詞は甚しく其の當を失せるものなる可きも、而も彼れが只管天性の機智と實務上の經驗とに指導せられ、當時に於ける幾多の小冊子記者が實務と旅行の經驗なきが爲めに其の論ずる所多く正鵠を逸せるを憾みとし、國家將來の繁榮を以て自己の全勞働に對して期待する唯一の報酬と做し鋭意其の所信を力說して止まざりしは實に國富增進を以て究竟の目的とせる經濟學發生前に於ける實證的經濟論の面目を遺憾なく發揮せるものと稱するを得可し。（一九二〇年五月）。

中世 Gilds の文化史上に於ける意義（二）

野村兼太郎

四

上述せし如き Gilds が文化史上に於ける意義を說明する前に、簡單に一般文化は如何なる傾向に發展するかに就いて述べやうと思ふ。勿論斯の如き發展の傾向を簡單に記述すると云ふのは、かなり困難なことである。多種多樣の事象を一二の原因に歸すると云ふのは、時に誤って獨斷に陷ち入る恐れがある。けれども大體文化の發展を觀察するのに、そこに何等かの歸趣があるやうに考へられる。從つて其の文化目的に到達しやうとする過程に於いても、それに適ふある統一せる傾向が存在して居るやうに思はれる。

すでに他の時期に於いて述べたるが如く(「經濟的史觀論の價値」本誌第十三卷第五號以下連載)人類の歷史の根底となるものとして、最も有力なるものは經濟的要素である。主として「自己保存」を基本とする物質的方面の生活である。故に吾人が形成する文化の一面は經濟的文化である。換言すれば物質的生產手段の進化である。然し乍ら文化の全體が物質的文化でないことは云ふまでもない。普通物質的方面に相反對する人類の一面として、精神的方面が擧げられる。即ち藝術、哲學、科學、宗教等の所謂文化の所產の內で抽象的なるものは、吾人の精神的方面の發現であると考へられる。此の人類の精神的方面と物質的方面との對立は、素より嚴重に區別することは出來ない。兩者相待つて、各自の文化を發達させることが出來るのである。然し乍ら吾人の生命を持續するに必要な物質的生活と、それとは全く離れて非物質的に自己の生活を形成しやうとする方面とに大體に於いて區別することが出來るだらう。

現在に於ける人類文化の發展は、其の根源に於ては矢張り未開(barbarism)の時代を經過して來たものと見做さなければならない。始めから所謂文明人であつたとは考へられない。此の時代にあつては所謂文化はなかつたと云はれる。其の物質獲得の手段――後世の所謂生產手段なるものは、極めて原始的であつたに相違ない。